

パリ2024オリンピック
フェンシング女子 サーブル団体
銅メダリスト

ふくしま し ほ み たかしま り さ
福島 史帆実選手、高嶋 理紗選手

福岡県知事 服部 誠太郎

福岡県タレント発掘事業の修了生で事業21年目にして初のメダル獲得という快挙を成し遂げた福島選手と高嶋選手に、事業に参加したきっかけや今後の目標を語っていただきました。



高嶋 理紗選手

大牟田市出身。オリエンタル酵母工業(株)所属。

福島 史帆実選手

宗像市出身。(株)セプテニ・ホールディングス所属。

| 福岡県タレント発掘事業について

知事:女子サーブル初のメダル獲得、おめでとうございます。まずは、福岡県タレント発掘事業に参加したきっかけを教えてください。

福島:体を動かすことが好きで、小学4年生のときに担任の先生から勧められ、参加してみたいと思ったのがきっかけです。

高嶋:私も小学4年生の担任の先生に選考会への応募を勧められました。県がこのような事業を行っていることは知らなかったので本当に感謝しています。

知事:参加して良かったと思うことは何でしょうか?

福島:それまで経験したことのないスポーツにチャレンジできました。1つの競技を3ヶ月経験して最後に試合も行うのですが、私は負けず嫌いだったので、どうしたらうまくなれるかを考えることが楽しかったです。もともと陸上をしていましたが、「フェンシングに向いている」と言われ、高校のときに転向しました。

高嶋:さまざまなスポーツに触れてフェンシングの適性を見いだしていただき、自分に自信を持つことができました。小学生の頃から夢だったオリンピック選手を目指して、中学校からは東京のJOCエリートアカデミーに所属してフェンシングに専念しました。



©(公社)日本フェンシング協会

● 福岡県タレント発掘事業とは?

子どもたちの才能を見つけ、育てるとともに個々に合った競技を探し、世界で活躍できるアスリートを育成するプログラム。平成16年度に開始し、今年度で21年目となり、これまでに8人がオリンピックに出場。

FUKUOKA
Sports Talent ID Project



参加当時の福島選手(左)と高嶋選手(右)

| オリンピックへの思い

知事:お二人の適性を見出せたことが、オリンピック出場に結びついたのですね。福島選手は2回目でキャプテンとして、高嶋選手は初出場でしたが、いかがでしたか?

福島:キャプテンとして少しでもチームの雰囲気が良くなればと積極的に声掛けをしていました。試合では勝ち負けを意識せず、目の前一本、自分の動きだけに集中しました。苦しい試合が続きましたが、メダルを獲得した瞬間は、最後まで一緒に頑張ったチームのメンバーに感謝の気持ちでいっぱいになりました。

高嶋:東京オリンピックの代表入りをあと一步のところで逃したので、パリの代表に選ばれてからは、メダル獲得を目標に人一倍練習に励みました。試合本番は、特別な舞台でプレーできる喜びを楽しもうという想いで臨みました。メダルを獲得した瞬間は、うれしい気持ちとほっとする気持ちであふれています。



©(公社)日本フェンシング協会

| 福岡県の若い世代の皆さんへ

知事:最後に、お二人のこれから目標や若い方々に向けた応援メッセージをお願いします。

福島:フェンシングはまだまだ体験できる場所が少ないので、福岡県で体験できる機会をもっと増やしていけたらと思っています。若者の皆さんには、結果を意識しそぎないように、そしてどんな結果になろうと努力し続けたことは今後の自信につながるということを伝えたいです。

高嶋:将来は福岡に戻り、地元の子どもたちがスポーツを楽しめるような環境づくりに貢献したいと考えています。若者の皆さん、自分を変えられるのは自分だけです。夢に向かって日々の積み重ねを大切にして最後まで頑張ってください!

知事:若者たちの未来につながるメッセージをありがとうございました。これからのご活躍をお祈りします。